

2026

7.8 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_glnUE3RKQ36qI3kYVWxM1g

【技術支援】九州大学 Q-AOS

持続可能な低平地をめざして

ー簡易水位計を活用した佐賀とインドネシアにおける水循環の可視化ー



Key Words

低平地

簡易水位計

水環境の可視化

三島 悠一郎 准教授

佐賀大学理工学部

出身は北九州市です。2002年に佐賀大学に入学し、2011年に佐賀大学大学院工学系研究科博士後期課程を修了しました。その後、ご縁をいただき、2011年4月から2013年7月まで佐賀大学低平地沿岸海域研究センターの研究員、2013年8月から2025年9月まで佐賀大学理工学部都市工学部門の講師（留学生教育担当）として勤務しました。2025年10月からは、同部門の准教授として勤務しています。

研究では、学部4年生のときに出会った下水からの「リン回収」、佐賀大学が立地する「低平地」の面白さ、そして環境を簡単に測るための「計測・観測」をキーワードとしています。

主な研究テーマは、佐賀低平地に広がる農業用水路「クリーク」の水位を観測し、地域の水資源管理や維持管理の高度化につなげる研究です。また、インドネシア南カリマンタンの低平地を対象に、農業用水が酸性化する問題について、その原因の解明と改善に向けた研究にも取り組んでいます。

このような研究で得た知見を広く生かすため、低平地をさらに学ぶための国際教育プログラムも実施しています。日本人学生を対象として、インドネシア、マレーシア、タイなどで海外研修を行っています。

低平地は、周辺の河川や海の水位と同程度、またはそれより低い標高に広がる土地で、わずかな高低差が水の流れや水位に大きく影響します。佐賀県南部では、クリークと呼ばれる農業用水路が今も用排水を支えており、水位を調整する仕組みとして重要な役割を果たしています。こうした水環境を理解するには、まず水位の変化を継続して測り、水循環を見える化することが重要です。本セミナーでは、安価で扱いやすく、多地点での観測に活用できる簡易水位計を用いた佐賀低平地での取り組みを紹介します。さらに、九州の亜熱帯化を考えるうえで参考となるインドネシアの低平地研究にも触れ、持続可能な低平地を考えるための基礎として、水循環を把握する研究の意義を紹介します。